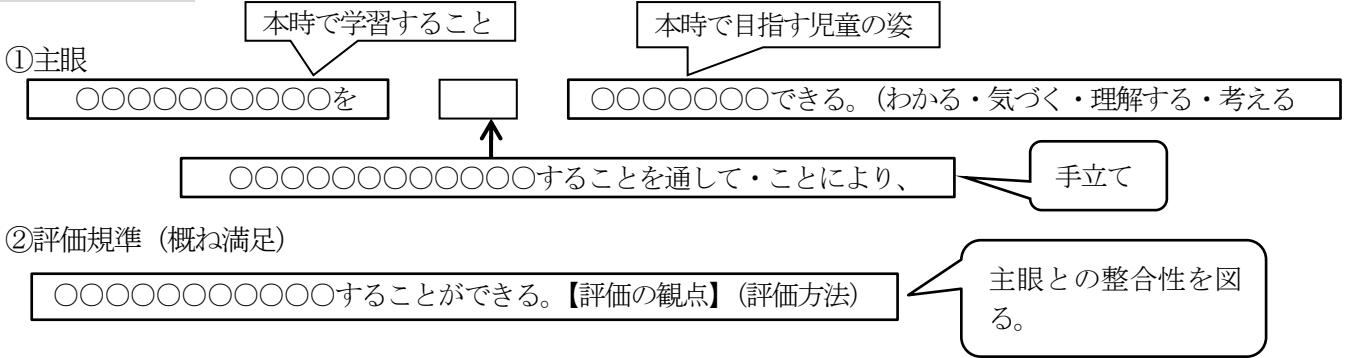


安岐小授業づくりスタンダード

1. ねらいの明確化



2. 授業の流れの明確化

①単元の流れが児童に見える手立てをとる。(学習活動の見通しを持たせるため)

個・ペア (P)・グループ (G)・全を学習内容によって入れる。

努力を要する状況の児童に対する手立てを工夫する

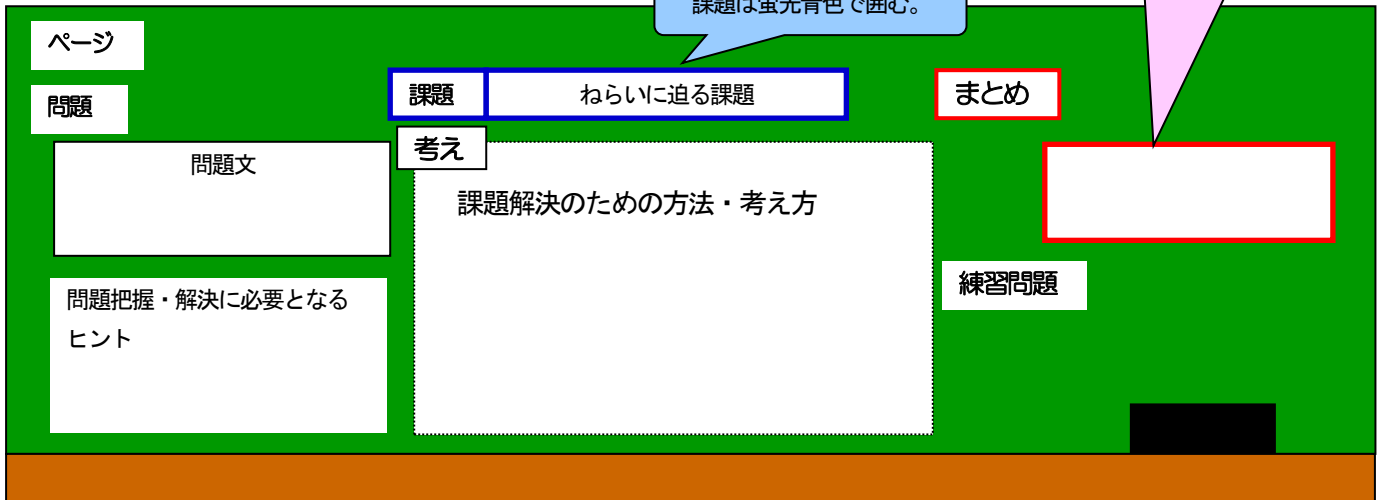
②本時の展開

学習過程	学習活動	時	学習形態	指導及び支援	個別の支援
つかむ (課題把握)	○課題を把握し、本時の活動や解決への見通しがもてる。			○単元を貫く言語活動や学習全体計画と対応していること ○ 本時の学習の流れの提示 ○題材との出合わせ方(導入)の工夫をする。 ・これまでの学習内容とのつながりを意識させる。 ・興味、意欲、関心が続くような提示の仕方を工夫する。	・課題把握のための手立て(図や具体物等)
本時の課題 (主眼と対応していること 児童向けのことばで提示する。)					
(考えをもつ) (課題追求)	○課題を解決するために自分で調べたり考えたりする。			○自分の意見を持ち、ノートに書く時間を確保する。 ・考えの根拠となるところをはっきりさせる。 ・困った時には意思表示(挙手)をせる。 ・ 考えるための手助けになる資料や具体物・ヒントカードなどを準備しておく。 ○隣の席の人や小グループで意見交換するのも効果的である。 ○机間巡視により子どもの意見を把握し、意見の出させ方を考える。	・考えを持たせるための手立て(声かけ・ヒントコーナー・ヒントカード等)
広げる (課題解決)	○調べたことや考えたことをもとに、自分の意見を発表したり友だちの意見を聞いたりすることで、自分の考えを広げたり深めたりして、問題を解決していく。			○隣の席の人や小グループ・全体でなどいろいろな意見交換の方法を取り入れる。 ○話し合いが機能するように工夫する。 ・ 発表した事項を整理し、考えの類似点や相違点がわかりやすいように、板書をする。 ○意見交換をしながら、思考を深めさせる。 ○子どもの意見をつなぎ合わせる支援を行う。 ○小グループの話し合いの流れを提示する。	・机間巡視での声かけ ・発言できない子への声かけ
ユニバーサルな視点を入れる。 ユニバーサルな視点を入れる。焦点化 ユニバーサルな視点を入れる。共有化					
				子どもの思考に揺さぶりをかける・結論へと導く発問。 ○話し合い活動後に再度自分の考えを振り返る場を設定する。	
まとめる (定着・発展)	○学習の成果を確認し、学習課題を解決することができたか、お互いの意見を認め合うことができたか振り返る。			まとめ (課題と対応したまとめをする。) ○課題を解決できたか、内容を理解できたかなどを確認する。 ・ワークシートへの記述内容。 ・学習感想を書いて。 ・自己評価カードに記入して。 ・練習問題で。等	・理解できたかの見取り ・ノート、ワークシートへの書き込み支援

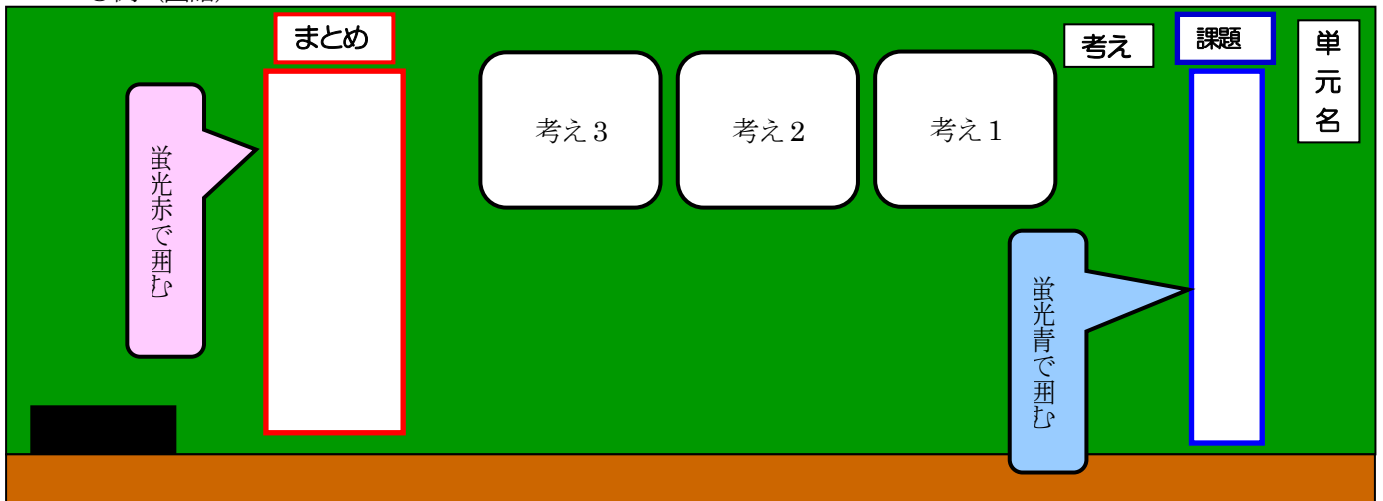
3. 板書の構造化 (黒板には、必要のないものは、掲示・記述をしないようにします。)

まとめは蛍光赤色で囲む。

○例 (算数)



○例 (国語)



4. ノートの取り方

◆ 1. 2年のノート

先生が書いた通りの配置で書くことを目指す。書くときと、聞くとき・話すときの区別をつけて、ノートを書かせる。

◆ 3・4年のノート

早く正確に書くことを目指す。課題を書くときは、先生が板書しているのと同時に書き始める。

◆ 5・6年のノート

自分のノートづくりを目指す。先生の話したことや友だちの意見を追加して書き、学習内容を整理していく。

※下敷きを敷く。

※線を引くときは定規を使う。

※文字は、枠からはみ出さないように書く。

※消すときは、跡が残らないようにきれいに消す。



日付を書く。(ページ)

課題を書き、青で囲む。

課題について自分の考えを書く。

まとめを書き、赤で囲む。

練習問題を解く。学習の振り返りを書く。(教科により) 等